

情報セキュリティについて ー 1人1台端末と情報セキュリティー

県総合教育センターカリキュラム開発部メディア教育担当

最近の報道で、スマートフォンなどのアプリ利用者の個人情報海外サーバーに置かれ、請け負った外国人技術者が閲覧可能になっていた事例や、アプリ運営会社のサーバーが侵入され、本人確認のために提出した個人情報が流失した事件など、私たちが普段、何気なく使っているサービスの安全性に暗い影を落としている。また、企業では、ランサムウェアという「人質ウィルス」に感染し、社内の共有情報が知らぬ間に暗号化され、その解除と引き換えに巨額の身代金を、身元が分かりにくい仮想通貨で支払わされるなどの被害が出ており、これまで以上に情報セキュリティの重要性が高まっている。

前号で、「1人1台端末利用の際に配付されたIDとパスワードは、クラウドを利用するものでもある」と書いたが、今後、1人1台端末をネットワークに繋ぐことで、双方向の通信は避けて通れない。そんな端末を文房具のように活用する上で気を付けなければならないことを以下に述べる。

(1)子供たちにIDとパスワードは家の鍵と同じぐらい大切なものだとの認識をもたせる

家の鍵は原則、家族以外は持たない。

(2)泥棒の侵入口（セキュリティホール）を塞ぐ。破られやすい場所はしっかり補強する

コンピュータの世界では、OSやアプリを常に最新の状態にしておくことにあたる。

(3)家に人を招き入れるときは、必ず誰かを確認する

1人1台端末ではメールをあまり使うことはないと思うが、知らない人から届いたもの、心当たりがないものは開かないことである。

これは、ランサムウェアなどのウィルス対策にも関係する。

(4)どうしたらいいかわからない、自分で判断できないときは大人に相談する

下校途中に不審者に遭遇したら「子ども110番の家」に助けを求めて駆け込むのと同様に、コンピュータでわからないことがあったら身近な大人に聞くよう指導することが重要である。

(5)大人が日頃から子供たちを見守る

登下校時に地域住民の方が危険箇所立って、安全に登下校できるよう見守りをしてくれている。1人1台端末が配付されると、おそらく子供たちは喜んで触れるであろう。その気持ちを大事にしつつ、ある程度自由に使用せ、もし誤った使い方をしていることがあれば、まさに情報リテラシーを指導するチャンスである。

学校における情報セキュリティと聞くと敷居が高く感じるかもしれないが、上記のように日常生活と結び付ければ指導しやすいのではないかと。おそらく、先生方が難しいと感じるのは②だと思われるが、これは、大人が主導してこまめに確認し、定期的に対応する時間をとることが重要である。（一部端末はこの機能を自動で対応するので、管理者に確認願いたい。）

これに情報モラル（千葉教育No.665に掲載）指導と併せることで、より効果が高まる。今すぐにやってみてはいかがだろうか。

(参考) IPA「情報セキュリティ10大脅威2021」